



平成30年9月1日現在

世帯数	: 798世帯
人口	: 1482人
男	: 714人
女	: 768人

松本市重要有形民俗文化財
松本城下町の舞台 シリーズ⑦
「中町3丁目 舞台の由来と特徴」



中町3丁目の舞台は、大きな『からくり人形』が特徴的な文化財です。この舞台は、明治27年建造と推定されていますが、平成24年に松本深志舞台保存会18町会の中で14番目に解体修理をしたところ、2階天井裏板に明治29年建造とあり、当時建造に携わった人々の名前も記されていました。

解体修理では、ご指導をいただいた信州大学工学部土本俊和教授の助言もあり、天井部分は手を加えず、建造当時のままの姿を残し、後世へ引き継ぐことにしました。

舞台の特徴の一つである



からくり人形 (修理時の様子)

『からくり人形』は、神主の姿をし、首と右手が左右に動き、御幣を振ってお祓いの仕草をします。高さ約1.4メートルあり、舞台の下層部分で人形を操れるように仕掛けが施されていたようですが、現在、動かすことはできません。

特徴の二つ目は、ケヤキ材の木彫刻です。四季折々の子どもたちの年中行事が、舞台正面と両側面に丁寧に彫り込まれています。「春の花まつりの甘茶かけ」「冬の雪だるま作り」「正月の風揚げ」等



木彫刻
子どもたちの年中行事

また、小庇の丸い模様は、牡丹の花をイメージしていて、金物等にも牡丹の模様が採用されています。『王様の風格』という花ことばを持つ牡丹の花をモチーフにしたり、舞台の随所に螺鈿が多く使われていたり、小庇のすぐ上にある格天井は朱で塗られていたり、近づかなければ気が付かない場所に細やかな工夫が施されていることも特徴の一つです。これは、当時の人々の粋でしょうか。

この舞台が末永く中町3丁目町会の宝として、また祭り舞台として、引き継がれていくことを願っています。

(中町3丁目町会
町会長 伊東 祐次郎)

第一地区 行事あれこれ 4月~8月

春のマレットゴルフ大会
4月21日

福祉ひろば「ふれあいコーナー」
5月26日・27日

緑の講座
5月26日

春の視察研修(富岡製糸場)
5月29日

料理講座
6月29日

夏休み自由研究応援講座
8月3日

青山様・ぼんぼん織り歩き
8月9日

納涼祭
8月9日

伊勢町3丁目町会 ふれあい交流会



伊勢町3丁目町会では、親睦・防災を目的とした「ふれあい交流会」を毎年8月のお盆に開催しています。町内の家族一同が集まるのはもちろん、お盆に帰省したきょうだいや子ども達にも参加を呼びかけています。懐かしい顔、新たに知る顔に出会うことは嬉しいものです。暑い時期の開催ですが、町内の役員が用意してくれた料理や冷たい飲み物をいただきながら楽しく語り合う様子は、町内のまじまりを感じます。



交流会では災害時に備え、防災訓練も行っています。町



会一時集合場所
所や消火器の
操作方法の確
認、備蓄食料の試食など、毎
年、町会防災部長を中心に訓
練内容を考えています。
今年8月12日の日曜日に
分銅町公園(せせらぎ公園)
で訓練を実施しました。この
場所は、災害時の町会一時集
合場所になっていて、同時刻
に町会住民全員が集合するこ
とは、大事な訓練になると思
います。今回の訓練は、初め
て松本市消防団第4分団の皆
さんに指導をお願いしまし
た。小松俊夫分団長より消火
器の取り扱い、初期消火につ
いて説明を聞き、家事等で火
を取り扱う機会の多い女性
が、訓練用の消火器を使い消
火訓練を行いました。また、
男性は消防車による放水訓練

を体験しました。

高野栄一防災部長は、「今回初めて第4分団の皆さんにご協力いただき、消防車から放水訓練をするなど貴重な体験をさせていただきました。指導を受け放水してみると水圧が感じられ、訓練を受けた皆さんも「貴重な経験をした。」と話し、今年の訓練も防災・防火の意識向上につながる充実したものになりました。日頃の親睦・交流は、いざという時の大切な絆づくりにつながります。今後もこの交

流会を大切に続けていきたいと思えます。

(伊勢町3丁目町会
町会長 深澤 健能)



平成30年度 第一地区公民館 委員紹介

◎:委員長 ○:副委員長
(順不同・敬称略)

- 運営委員会
 - ◎深澤 健能
 - 犬飼 陽一
 - 春日 孝介
 - 田内 正一
 - 分部 由里
 - 伊藤 峯一
 - 大谷 美紀子
 - 渋谷 隆也
 - 真島 富男
 - 村山 さえ子
 - 阿部 康之助

- 視聴覚委員会
 - ◎分部 由里
 - 宮島 幹治
 - 山崎 眞生夫
 - 長崎 俊夫
 - 有江 一記
 - 駒形 勝子
 - 伊藤 善立
 - 永井 昭
 - 佐久間 まゆみ

- 館報委員会
 - ◎田内 正一
 - ◎横沢 敏
 - 岩原 正勲
 - 山内 敦子
 - 伊藤 善立
 - 白井 充子
 - 山口 はるな

- 文化委員会
 - ◎犬飼 陽一
 - ◎神木 笑子
 - 内藤 英昭
 - 桐原 崇光
 - 高嶋 敏行
 - 毛利 達生
 - 花村 麗子
 - 中畑 幸子
 - 飯森 福太郎
 - 太田 千代子
 - 鷺沢 寿美子

- 地区公民館職員
 - 阿部 康之助
 - 降旗 英明
 - 北平 知子
 - 北川 美奈
 - 佐久間 まゆみ

史上最も暑かった夏がようやく終わったが、おかげで例年になくストローを利用する機会が多かった。ところがこのプラスチック製のストローの使用が、ヨーロッパでは禁止されるという。マイクロプラスチックによる海洋汚染が深刻化したため、国内の大手外食チェーンでも将来的には利用しない方針を打ち出したところもある。代替としては紙管製のストローが候補に挙がるが、コスト面でも耐久性でも大幅に劣るようである。ストローを直訳すれば麦わらで、昭和の半ばまでは実際に麦わらのストローが日常的に使用されていたようだが、コストに勝るプラスチック製の登場と小麦栽培の減少から全く姿を消してしまい、今更の復活もなさそう。市場には竹製のストローやアルミ、ステンレス、チタンといった金属製のストローも登場したようだが、家庭や飲食店で繰り返し使うならまだしも、テイクアウトの使い捨てには難しい。そもそも綺麗に洗浄する手間まで考えたら気が遠くなる。海洋汚染の防止のためならば、もっと先に止める物があるのではないだろうか。

電車通り